ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

126 号
2016 年 12 月 10 日発行号

まだ預かり中！！
こすげ冒険学校の忘れ物です。心当たりある方は、事務局まで！！

冬になったのだけれども。

11 月 24 日。東京では 1962 年以来 54 年ぶりとなる積雪を観測しました。小菅村では、20 ㎝の積雪で雪履きもしました。12 月 10 日現在、日陰に少々残ってますが、普通の 12 月。むしろ、積雪を経験した後では、暖かい冬に感じています。慣れるってことは強くなるってことかもしれませんね～（内容によるけれども）。

■ 活動報告 ■

その 1 「タイ環境学習キャンプ」報告　　8.13～23

○はじめに

前号のナマステでも記事が載っていましたが、2016 年 8 月 13 日～23 日にかけて、タイ環境学習キャンプに同行してきました、贄田隼人（だにえる）です。自分はそもそも海外に行くのが初めてで、10 日間が衝撃の連続でした。本当に楽しいこと、面白いことだらけで、行ってよかったなと思いました。10 日間の行動をすべて書き出しても冗長かなと思うので、活動記録というよりは、タイでのことをいくつかの項目に分けてお伝えしようかと思います。これを読んだ人が、少しでも興味を持って、一歩踏み出してもらえたらと思います。

○パンダキャンプのこと

タイでの 10 日間の中でも、特に心に残っているのがパンダキャンプでの生活です。キャンプという名前が付いているけども、テントでの野営ではなく、小菅のキャンプ場にあるログハウスをもう少し簡素にしたようなバンガローで寝泊まりをします。シリポンさんがやっている、『ファミリーフォレスト』の活動なんかで使われているそうで、タイの自然が詰め込まれたキャンプ場です。日本の真夏くらいの気候なタイでも、ここの朝晩は半袖だと涼しいと感じるくらいで、本当に快適です。

バンガロー

クモ

前回の会報の発送で、「こすげ冒険学校　修了証」の同封を逃していました。
何やってるんだ事務局！！　　誠に申し訳ありません・・・。

バンコクでの交通量や人の多さを味わってから、ここに来るとほっとした気持ちというか、落ち着くなという気がするのはなぜでしょうかね。小菅のキャンプ場での生活があまり苦にならない人なら、本当に快適に過ごせる場所だと思います（トイレも水で流せるタイプだし）。密度高く生えた竹だとか、バナナの木、タイで自生している多くの植物が植えられていて、日本の庭や家庭菜園と比べてしまうと圧倒的で、歩きまわるだけでも楽しいです。植物が多ければ、そこで生活する生き物も多く、ヤモリやリス、ホタルなどを目にすることができました。トッケイヤモリという大型のヤモリも生息しているようですが、鳴き声も姿も確認できなかったのが心残りです。

動植物も素晴らしいですが、パンダキャンプでの食事も素晴らしかったです。カレンさんやおばちゃんが用意してくれるご飯は、お店で出てくるようなものとは違った、タイの美味しい家庭料理でした。しかも、我々のことを考えてくれて、辛さが抑え目なのがまたうれしいところです（でも油断していると普通に辛かったりしたけど）。食事だけでなく、食後に出してくれる果物も毎回違ったものを用意してくれて、いつも楽しみでした。

ごみさん、ごめさんがタイの小学生や大人相手にワークショップをするお手伝いなんかもしたけれど、パンダキャンプで一番衝撃的だったのは土の中にいたクモ。掘り出したノイさんにも驚きだけど、クモのサイズが大きいこと大きいこと。獲ったあとに食べるぞとか話していたけど、結局食べることが無くてよかった…。

○ファイ・カ・ケン野生生物保護区のこと

パンダキャンプからさらにピックアップトラックに長いこと揺られていったのがファイ・カ・ケン野生生物保護区。「タイ最大で最後の原生地域」なんて称されることもあるみたいです（キャンプから戻ってから知りました…）。ともかく、そう呼ばれるにふさわしい、広大な森林地帯がファイ・カ・ケンです。普通は、ここで働くレンジャーや、動植物を調査する研究者の人でないと立ち入りが出来ない場所です。それを、現地の方に同行してもらうことで、観光や旅行では絶対に辿り着けない場所に行くことができるというのがこのタイ環境学習キャンプのすごいところの一つかなと思います。

ファイ・カ・ケンに行った初日は、観察塔という建物でひたすら双眼鏡をのぞいていました。運がいいとトラやゾウなんかが通るみたいなのですが、この日は現れず、代わりにクジャクを観察することができました。野生のクジャクっていう言葉がなんだかもう変な感じがしますが、動物園なんかで見かけるクジャクと違って、野生のクジャクの尾は引きずらない程度の長さなんだな、やっぱり野生だと抜けたりしちゃうのかなと思っていたのですが、一般的なイメージのクジャクはインドクジャクで、僕らが見たのはマクジャクなのでそもそもが間違っていたみたいです（書いていて恥ずかしい）。その後は研究者用のバンガローに行き、10 時の消灯時間まで食事やお酒で盛り上がっていました。

ファイ・カ・ケンの道

ファイ・カ・ケンからの眺望

次の日は朝から出発して、保護区の中のもっと奥へと向かいました。自然をなるべくそのまま残すという意味もあるのだと思うのですが、舗装されていない道をピックアップトラックで延々と走っていくというのがもうワク

ワクして、楽しくてたまりません。野生生物を見逃さないように、ゆっくりと進んでいき、写真を撮ったりするために時折止まったり。そんな風に時間を贅沢に使って奥地まで進んでいき、きつい坂道を強引に車で登り切って、最後は少しだけ自分の足で登っていくと、見渡す限りの原生林に出会いました。地平線まで人工物は何もない景色に圧倒されてしまいました。タイにいる間、何度か山がすごい遠くにあるな、日本ではこんなことないよなと思うことはありましたが、この景色は別物でした。はるか遠くに見える山まで延々と広がる森にため息しか出ませんでした。

直接目にすることは出来なかったのですが、道の途中、ゾウがいた形跡をいくつか目にすることができました。それは道に落ちていたゾウの糞だったり、なぎ倒された竹や木だったりですが、確かにファイ・カ・ケンで生きる動物たちの気配が感じられるものでした。もし、また行く機会があれば会いたいなと思う反面、ゾウやトラに出会ったら命が無事で済むのかなと思うと怖いなとも思ってしまうのでした。

〇食事のこと

タイの食事は、基本的に甘いか辛いかです。あとはあまり味が付いていないという場合もあります。というのも、ご飯を食べるところの多くで、ナンプラーやお酢、唐辛子なんかが置いてあり、自分で好みの味付けにして食べるという感じになっているからです。出された食事に対して、食べる前から調味料をかけるというのはなんとなく抵抗がありますが、タイでは普通のことのようでした。

パンダキャンプでの食事は辛さ控えめで美味しかったのですが、他の飲食店は容赦なく辛いことがあって、文字通りの刺激に溢れた食生活でした。特に刺激的だったのが、コーヒーショップで食べたペペロンチーノ。日本でも本格的なものは結構辛いことがあるのだから、想像力を働かせればよかったのかもしれませんが、この時はそんなこと考えもしませんでした。お腹を空かせて待っていたところに来たのは、スライスではなく、砕いたのかなという感じのごろっとしたニンニクと、5 本は優に超えた数の唐辛子が入ったペペロンチーノでした。とても美味しかったのですが、本当に刺激的でした…。タイでの食事は覚悟が必要ですね。

他にも、もち米に練乳みたいな甘い液体をかけたものだとか、果物に砂糖をつけて食べるだとか、衝撃的なことも多かったのですが、なによりも自分の中で衝撃だったのは、ドリアンがとてつもなく美味いということです。タイに行くまでは、見た目も匂いも食品のそれではないと思っていたので食べたことがなかったのですが、郷に入っては郷に従えということもあり、勧められるがままに食べてみたところ、1 回目は匂いが気になりつつも味は悪くないな、2 回目は匂いにも慣れて美味しく感じ始め、3 度目には自分から食べに行くようになってしまいました。やはり、その土地のものをその土地で頂くと格別に美味しく感じますね。ドリアンに苦手意識がある人でもタイの市場で見かけたら是非挑戦してほしいと思います。匂いが嫌な人は少し硬めのものを選んでもらうと食べやすいと思います。

〇言葉や文化のこと

タイでの 10 日間のうち、その半分くらいをタイで日本語の勉強をしているガオという青年とともに過ごしました。ガオ君の日本語は、日本でも十分通用するレベルで僕から彼に教えてあげられることは少なかったのですが、彼からはタイのことやタイの言葉を色々教えてもらいました。タイのあいさつは「サワディ　カップ」、ありがとうは「コップン　カップ」です。あいさつ等くらいはしっかりできるようにしておこうと思い、ガオ君に色々と尋ねたのですが、そこでいくつかびっくりすることがありました。まず、「いただきます」とあたる言葉がないこと。タイの人は料理が出されたら、お店の人にお礼は言いますが、みんなでそろって食べ始めるという雰囲気はありません。出された料理にどんどん手を付けていきます。「御馳走様でした」もありません。「日本は（いただきますとか言ってから食べることが）変だよ。」とガオ君は言っていましたが、僕は日本の、食材にも作ってくれた人にも感謝を示す文化が好きです（20 年以上続いているから染み付いているだけかもしれませんが）。それともう一つ、「おやすみなさい」にあたる言葉もタイにはありません。もしも言うとすれば、とガオ君が教えてくれたのは「ファン

ディー」というタイ語でした。「良い夢を」という意味だそうです。これはこれでいいかもしれないと思い、タイでは使っていました（何度もガオ君に発音を直されましたが）。

若林夫妻や、シリポンさんたちと話をするのも、もちろん興味深く楽しかったのですが、やはり年の近い人と話すというのは気安く、色んな話もできてよかったです。タイの人の仕事に対する価値観や考え方といったことから、日本の音楽やアイドルといったことまで、色んな話ができて楽しかったです。でも、NMB はおろか、AKB も大して詳しくなくってごめんね、ガオ君…。まさかアイドル好きのタイ人と一緒に行動するとは思ってなかったんだよ…。

○お金というか買い物のこと　　※　１バーツ≒３円

タイで過ごして、食事の安さに感動しました。大学の食堂でならば、35～50 バーツあれば一人前の食事が手に入ります。スーパーマーケットなら、水が８バーツくらい、ビールは 39 バーツくらい。日本では本当に考えられないくらいの安さです。特にビール。あとフルーツも１キロあたり 50 バーツとかで買えるので安かったですね。サンダルや T シャツといった衣料品は日本でも安いものも多いので、特別安いなという気はしませんでした。とはいえ、サンダルは快適だったのでいい買い物をしたと思いますが。渡し舟のお代も３バーツだったので、タイでもっと長く生活をすることがあればもっと物価の安さを感じるシーンも増えたのかなと思います。

買い物に関してもう一つ、チャトチャというバンコクにあるマーケットのことです。週末にだけやっているそうなのですが、とにかく広くて店の数や種類が豊富で、服やアクセサリー、電子部品や木工品、家具なんかも置いてありました。吉祥寺のハモニカ横丁のような細い道と所狭しと並んだ店が、１キロ四方くらい（実際には長方形っぽいのですが）ひたすら続くのは歩きまわるだけで楽しさがありました。探せば、大抵のものはここで手に入るので、お土産はここで買うのがいいかもしれないですね。ちなみに、僕はここでシンハーとチャングというタイのビールの柄の T シャツを買いました。もう観光に来た日本人丸出しでした（笑）。

アンチャンの花

大きな木（日本だとサシマスオウの木かな？）

○おわりに

タイでのことを全部書き出したら、冗長になるからと思って項目別にしたはずなのに、それでも冗長になってしまいました…。それだけ、タイでの活動が充実していて、感じたことがたくさんあったと思って勘弁してください。

タイ環境学習キャンプは、行って損をしたということは絶対にないので、ちょっとでも興味があれば是非。気になることがあれば僕やごめさん、ごみさんに。

では、ここまで読んでいただいてありがとうございました。　　（贄田）